

第107回 『うつ病とイフェクサーSRカプセル』

ファイザー 井谷 厚志さん

参加者：川村先生

加藤、味田村、加納、前田、渡辺、畠山、小平、野田

うつ病とは、抑うつ気分、意欲・興味・精神活動の低下、焦燥、食欲低下、不眠、持続する悲しみ・不安などを特徴とした精神障害である。健康なときにもうつ状態になることはあるが、うつ状態が2週間以上持続している場合うつ病の可能性が高く、日常生活や仕事をするのが困難になってくる。

【効能・効果】

うつ病・うつ状態

【用法用量】

通常、成人にはベンラファキシンとして1日37.5mgを初期用量とし、1週間後より1日75mgを1日1回食後に経口投与する。なお、年齢、症状に応じ1日225mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として75mgずつ行うこと。

【特徴】

- ・ セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤（SNRI）で、1日1回投与の徐放性製剤。
- ・ 低用量では主にセロトニン系に作用し、高用量ではセロトニン系とともにノルアドレナリン系への作用がより強まるデュアルアクション。
- ・ 世界90以上の国と地域で承認されており、既に海外では大うつ病性障害などの治療薬として浸透している。米国の治療アルゴリズムでは、精神病性の特徴を伴わないうつ病治療の第一選択薬として推奨され、また他の第一選択薬には反応しない、または忍容性がないために治療変更を要する場合の第二選択薬としても推奨されている。

【副作用】

国内臨床試験において、本剤が投与された総症例1255例中1028例（81.9%）に副作用が発現した。主な副作用は、悪心（33.5%）、腹部不快感（腹痛、膨満、便秘等）（27.2%）、傾眠（26.9%）、浮動性めまい（24.4%）、口内乾燥（24.3%）、頭痛（19.3%）であった（承認時）

重大な副作用として、セロトニン症候群、悪心症候群、抗利尿ホルモン不適合分泌症候群（SIADH）、QT延長、心室頻拍、心室細動、痙攣、アナフィラキシー、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson症候群）、多形紅斑、横紋筋融解症、無顆粒球症、再生不良性貧血、汎血球減少症、好中球数減少、血小板数減少、間質性肺疾患、高血圧クリーゼ、尿閉がある。

【考察】

うつ病治療には、十分な休息と薬物治療が基本となるが、イフェクサーを含め抗うつ薬の効果が現れるまでは数週間かかり、服用を続けていくことで徐々に症状が改善されていく。また、飲み始めは眠気や悪心、便秘などの副作用を感じやすいが、多くの場合はしばらくすると治まっていく。治療継続のためには副作用の説明とともに

に、自己判断で中止しないよう指導することが重要である。特にうつ病の患者様は不安症状が強い傾向にあるため、言葉の選択や伝え方などにも注意しなければならない。

うつ病は再発の可能性が高い疾患のため、症状が良くなってからも維持療法を行う必要がある。しかし、改善してくると通院をやめてしまうケースも多いため、維持療法中の患者様へも定期的な声かけが必要であると考えられる。

【質問事項】

Q. 1日1回はいつ服用するのがよいのか。

A. 患者様それぞれのライフスタイルに合わせてよい。

または、副作用として眠気があれば夜、不眠があれば朝か昼の服用とする。

Q. 効果はどれくらいで出るのか。

A. プラセボと有意差が出るのは服用から4週間後。

Q. 用量を1日37.5mgのまま継続することは可能か。

A. 37.5mgの規格があるのは日本だけ。原則として1日75mgなので、副作用などの理由があればコメントが必要。